

令和4年度|2022 教員・職員(FD・SD)活動報告書

郡山女子大学|郡山女子大学短期大学部

2023 年 6 月

学園教育充実研究会

目 次

I 全授業公開 __3

II 学園教育充実研究会〔大会〕

テーマ -合理的配慮を必要とする学生の支援にむけて- __4

学園教育充実研究会、障がい学生支援室 共催

講演「本学における障がい学生支援の在り方について」

III 各種研修会 __11

1. 学生生活部共催

SD/FD 研修「経済安全保障と福島県」

2. 教養・キャリア委員会、就職部、IT管理・運営委員会共催

FD研修「めばえドリルの意義、学生の利用状況を確認する方法」

3. 不正防止委員会・教務部共催

科研費説明会「科研費について」

「研究倫理教育受講」

4. 大学 家政学部 食物栄養学科

学科セミナー「労働者の健康・体力づくり活動からわかったこと」

5. 大学 家政学部 食物栄養学科

市民フォーラム「食と健康～免疫力upと食の安全を考える」

6. 学生生活部・学生生活委員会、障がい学習支援委員会、学生相談室共催

学生指導研修会「今大学で対応すべき学生の心のケアと成長支援」

7. 障がい学生支援委員会・学生生活部 共催

障がい学生支援研修会「2022年度の障がい学習を振り返る」

8. ハラスメント防止委員会

ハラスメント防止研修会「みんなでNOハラスメントオンライン研修講座」

9. 教務部、不正防止委員会共催

令和4年度 学校教育における著作権に関する研修会

「論文作成等に関わる著作権制度のおさらい」

「令和3年著作権法改正による『国立国会図書館デジタルコレクション』のリニューアルと

『個人向け送信サービス(個人送信)』について」

10. 第I回研修会 SD部門

「未来に向けて学園の魅力を発見・発信しよう!」

IV 事務局職員 外部研修参加記録 __26

総務部・入学事務広報部・教務部・学生生活部・就職部・図書館・学園教育充実研究会(SD 部門)

I 全授業公開

全授業公開は、開講する全ての授業を教員や職員に公開するものである。しかし、今年度はコロナ感染拡大防止の観点から、所属の学科の授業のみ参観とした。

I. 背景と目的

全教員の授業力のさらなる向上

II. 公開方法

■ 公開時期

〔今年度〕 後期：11 月第 3 週～4 週の2週間（11/14～11/25）

一般的には第 10 回～11 回の授業

■ 公開について

- ① 「公開免除の規定」により免除されない限り、全ての自身の授業を公開する。
- ② 参観者から事前の連絡が欲しい場合、注意事項がある場合、特別な理由などにより非公開の場合は、その旨をグループウェア上にあるスケジュールの「メモ欄」に記入する。
- ③ 上記②の記入は当該授業日の 3 日前までに行う。
- ④ 参観者があった場合は、公開期間終了後に参観者名簿を教務部に設置の提出 BOX に提出する。

■ 参観について

- ① 期間中の参観を任意とする。
- ② 参観 1 回につき研修会参加 1 回分としてカウントする。
※参観の有無（回数）は提出された参観者名簿より、学園教育充実研究会が集計する。
- ③ 参観する際には、参観者名簿に記帳し、授業終了後には、感想用紙を授業担当者に提出する。
- ④ 参観は授業開始から終了までを原則とするが、2 時限連続の授業等においては 1 時限分のみでも可とする。

III. 全授業参観者数

教員 大学 11 人 短大 10 人 計 21 人

Ⅱ 学園教育充実研究会 [大会]

「学園教育充実研究会」は、昭和 44 年(1969 年)、教育力の向上と教職員の相互連携を目的として、故 関口富左名誉学園長によって発案された。以来、半世紀に渡って、教職員が集い互いに研鑽を積み重ねてきた。

昨年、一昨年は、新型コロナウイルス感染症拡大のためにオンラインでの開催となったが、今年度は 2 年振りに教職員が一堂に会し開催した。

今年度の研究会は「合理的配慮を必要とする学生の支援にむけて」をテーマに、大学生生活科学科・障がい学生支援室の小林徹先生と藤村励子先生の講演と、各学科、事務局によるディスカッションを行った。

講演では、障害のある方々の人権が、障害のない方々と同じように保障され、障害のある学生の修学機会が確保されるよう、障害特性や困りごとに合わせておこなわれる配慮について説明がなされた。

その後行われた各学科、事務局におけるディスカッションでは、本学園の合理的配慮を必要とする学生の支援について、今後の具体的取組を検討する機会とした。

■日 時 2023 年 2 月 20 日(月) 9:00~12:20 建学記念講堂小ホール 他

■参加者 FD部門 : 大学教員 34名 短大教員 39名
SD部門 : 事務局職員 (高校事務局を含む) 27 名 計 100名

■テーマ 「合理的配慮を必要とする学生の支援にむけて」

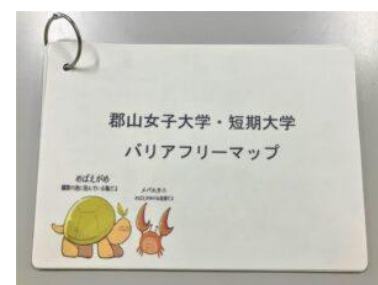
【第58回 学園教育充実研究会 大会プログラム】

企 画		時 間	内 容
開会式		9:00~9:15	1. 学園長挨拶 2. 学園教育充実研究会主任挨拶 3. 研修の概要説明
講演 障がい学生支援室共催		9:20~10:20	演 題 「本学における障がい学生支援の在り方について」 講 師 小林 徹 先生 (障がい学生支援室 生活科学科 教授)
SD・FD 合同 研修会	ワーク①	10:30~11:05 (35分)	テーマ 「学生が作ったバリアフリーマップについて」 講 師 藤村 励子先生 (障がい学生支援室 生活科学科 講師・)
	ワーク②	11:15~11:50 (35分)	テーマ 「各学科・事務局内における障がい学生支援の在り方および課題の共有」 ※職場における障がい学生支援の現状や課題について、各自で事前にご検討の上参加。 (例:入試、オープンキャンパス、授業、施設、学生生活、実習、資格、行事、就職支援、他)
閉会式		12:00~12:20	1. 各学科・事務局からの成果報告 各学科・事務局の代表者より1分程度で研修成果を報告 2. 講評

■参考

〈研修会ワーク①参考資料〉

右記 QR コードは、本学のバリアフリーマップです。
来年度の「学生生活の手引き」と「アドバイザーの手引き」
に掲載されますので、ぜひご活用ください。



(大学生生活科学科「肢体不自由者の心理・生理・病理」の受講が作成)
(令和4年度の授業で実施:学生支援室、管財部 監修)

〈研修会ワーク②教室およびグループ〉

- | | | | |
|-----------|-------------|-----------|---------------|
| ○事務局 1・2 | 創学館 521 講義室 | ○大学生生活科学科 | 創学館 532 講義室 |
| ○大学食物栄養学科 | 創学館 533 講義室 | ○地域創成学科 | 創学館 534 講義室 |
| ○健康栄養学科 | 創学館 談話室 | ○幼児教育学科 | 62 年館 632 講義室 |

■実施内容

●開会式 9:00~9:15 建学記念講堂小ホール



●講演 9:20~10:20 建学記念講堂小ホール

「本学における障がい学生支援の在り方について」

講師 小林 徹 先生 (障がい学生支援室 生活科学科 教授)

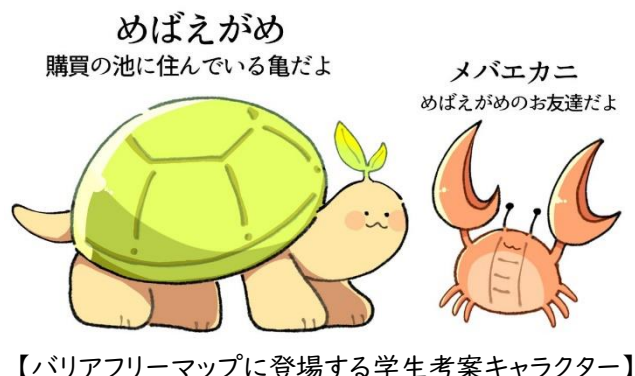


●SD・FD合同研修会 10:30~11:45 ワーク①健学記念講堂小ホール ワーク②指定教室

(1)ワーク① 10:30~11:05(35分)

テーマ:「学生が作ったバリアフリーマップについて」

講 師: 藤村 励子 先生 (障がい学生支援室 生活科学科 講師)



(2)ワーク② 11:15~11:50(35分)

テーマ:「各学科・事務局内における障がい学生支援の在り方および課題の共有」

進 行: 各学科、事務局

内 容: 職場における障がい学生支援の現状や課題について、各自で事前にご検討の上参加し、入試、オープンキャンパス、授業、施設、学生生活、実習、資格、行事、就職支援等についてディスカッションを行った。



【大学 生活科学科】



【大学 食物栄養学科】



【短大 健康栄養学科】



【短大 地域創成学科】



【短大 幼児教育学科】



【事務局】



●閉会式 12:00～12:20 建学記念講堂小ホール

(1) 各学科・事務局からの成果報告

各学科・事務局の代表者より1分程度で研修成果を報告



(2) 講評



【第58回学園教育充実研究会 大会 参加者アンケート結果】

入力期間:令和5年2月24日(金)～令和5年3月24日(金)

回答者:全体144人 回答人数 101人 [70%] 未回答人数 43人 [30%]

設問 1 第58回学園教育充実研究会「合理的配慮を必要とする学生の支援にむけて」に参加しましたか？

[参加した]	78人	77%
[参加しなかった]	23人	23%

設問 2 総合的に見て第58回学園教育充実研究会のテーマや内容はどうでしたか？

[有益だった]	52人	51%
[やや有益だった]	26人	26%
[やや有益でなかった]	0人	0%
[有益でなかった]	1人	1%
[未回答]	22人	22%

設問 3 第58回学園教育充実研究会のテーマや内容についての感想・質問・改善策等がありましたらご記入ください。

【回答数33人】

- 障がいがある、あるかもしれないという学生はこれまでもあった。しかし、その学生に対する支援について具体的に学科内で話し合う機会が充分にあったとは言えない。その意味からも、学科の特色を踏まえた話し合いの機会になりえたと思えた。
- 今後の障がい学生支援について、その背景を知ることができ大変充実したものと感じました。
- テーマ設定も内容も良かったと思う。

- 論点がずれていたと思う。
- テーマ・内容ともに非常に良かった。
- 障がい学生が通学や学内のバリアフリーで苦勞しながらも真摯に学んでいることを、学内で共有できて良かったと思いました。
- 学内のバリアフリーマップ作成については、障がい者だけでなく、ご高齢の方や幼稚園であればベビーカーなど様々な人が出入りする本学として、大変すばらしい取り組みだと思いました。一方で、障がい者の研修で「合理的配慮」については良くご説明いただきますが、いまいちの見込めておりません。今回も合理的配慮についてご説明いただきなんとなく理解は出来ますが、その場その場での対応は、事情が分からない側からすると、折り合いをつけたり対応したりするのが大変難しいように感じました。「どこまでを許容とするのか（対応する必要性があるのか）、そもそも断っても良いのか（相手に委ねたり、お願いしてもらうようにするのか）。」など。身体のみでなく、精神的で障害を抱えている学生が支援要望を出してきた場合はどうしたらよいのかなど、まだまだ理解が足りておらず色々考えさせられました。ありがとうございました。
- 大変有益な内容でした。
- 障がい学生支援の背景や本学における支援の状況がよくわかり、有意義な研究会でした。
- 短時間の話し合いでしたが、今後このような対応が求められるのだという問題意識を持つことができました
- 障がい学生を学科で対応しているが、基礎知識の無い学科教員もいながらも学生が入学しとにかく毎日対応をしなければいけないと1年を終えてしまったが、もっと早くに小林先生、藤村先生の講演を聞ければよかったと感じた点が多々あった。勉強させていただいた内容を今後の学生対応に活かしたい。
- 障害学生支援の必要性が良くわかりました。
- 具体的な内容で、現状と今後の課題等が明確になったと感じました。
- 小林徹先生と藤村励子先生の講演内容が素晴らしかったです。前者は現在に至る経緯と制度原理が理解しやすく整理されており、後者は教育実践を通して障がい学生支援の実際に触れることができました。素晴らしい時間を提供して頂き、感謝申し上げます。
- タイムリーな話題で良かったと思います。
- 教職員等の意識改革を望みます。
- 車椅子学生を始めて受け入れたこともあり、取りあげるタイミングは良かった。
- 後半の分かれての議論およびその後の報告では、議論の時間・各会場から講堂への移動を考えると議論した内容を整理する時間はなかったように思う。時間に関しては検討を要するのではないかと。
- 時宜を得たテーマで大変勉強になりました。今後の我々教員に期待される対応力がいかにハイレベルであるかを知り、身の引き締まる思いでした。これを期に、支援室が実際の課題対応についても積極的に介入することを期待します。
- 障害学生受け入れについての課題等を共有できたのではないかと思います。
- 前の週に「障がい学生支援委員会」の研修で、実践報告があり、今回の研究会ではその背景にある法律の解釈を説明して頂き、理解を深めることができた。
- 半日位の開催が丁度良いと思った。
- それぞれの障害の特性に応じた単位修得のための支援や教育の在り方が難しいと感じました。
- 障がい学生支援の歴史を学ぶことができたこと、また、バリアフリーマップの解説を聞いたことが、とても有益でした。また、仲田先生による地域創成学科の経験を前の週に共有できたことも、連続性のある研修で、良かったと感じます。
- 小林先生の障がい者差別禁止法や本学の「障がい学生支援委員会の発足」について等、とても分かりやすい説明でした。藤村先生の授業実践報告は特別支援教育のポイント、合理的配慮の考え方などを盛り込んでおり、とても素晴らしい実践報告でした。授業で学生と一緒に作成した「マップ」を実用化するところまで発展させており素晴らしいです。お二人の講話は、とても勉強になりました。ありがとうございました。

いました。

- とても勉強になりました。「障がいがあるから大学では学べない」で片づけるのはとても不本意なことだと思いましたし、だったら学校側はどう対応したらいいのか試行錯誤はしますが、障がい学生が気持ちよく学べるように考え、実践することはとても意義のあることだと思いました。
- 障がい学生支援という1つのテーマに絞って実施したことは良かったと思う。制度に関する内容や、関係授業の実践報告はとても良かったと感じた。管財部や教務部、学生生活部、保健室など、事務局側が障がい学生に対してどのように対応しているかの発表もあればよかったと思う。

設問 4 「大学全体・各学科・事務局内における障がい学生支援の在り方」について、今後の課題や取り組むべきことなどがありましたらご記入ください。【回答数28人】

- 精神疾患を抱えた学生に対する支援について、対応できるような体制が望まれると思う。
- 小学校入学時のように、入学者全員に「支援が必要か否か」であることの確認を紙面で取ることは、大学では制度的に難しいのでしょうか？ 事前に知っておくことで、入学前に備えておけることもあるのではないかと思います。支援室（委員会）+保健室+学科など、組織的に対応できる環境が必要であると感じました。
- 引き続きできることから頑張ります。
- 情報の共有
- 各学科で見直して、情報を積み重ねていくことが大切ではないかと思いました。
- 施設設備のバリアフリーだけでなく、心のバリアフリーが何より重要です。
- 障害者向けに施設設備の新設・拡充・改善が急務だと思います。例えば各建物の玄関の自動ドア化や階段へのリフト設置など。
- 教職員は勿論の事、学生たちにも障がい学生支援に対する理解を促し、共に支援していくことが望ましいと思います。
- 入学願書に記入して本人は大学に伝えてあると思っているケースがありました。入学時からの情報の共有化ができるとよいと思いました。
- 支援教育が必要な学生が入学してきた場合の対応について具体的に協議されている必要を感じた。
- 個人的なプライバシー配慮も大切ですが、学園全体としての情報共有も必要だと考えます。
- 次年度の大運動会については、課題解決に向けて学友会・担当教員での検討会の必要性があります。なるべく早い段階で検討会を開催します。
- 大学全体の障がい学生支援体制を整えるにあたっては、支援室の充実が欠かせないと思いますが、そのスタッフが教員のみで構成されているのでは、限界が大きいと思います。支援ニーズの発生に即時対応可能な専従職員の配置が望まれます。
- 配慮ニーズを持つ学生さんが来る前提で、授業を考えておく必要があると思いました。
- 知的障害の学生受け入れについて、入試、講義、実習、就職等を視野に入れていただきました。
- 教員個人の努力に負うところが多い現実を認識し、具体的な対応を行うことができる専従の人材を、支援室に置かれることを期待します。
- 情報共有が必要かと思うます。
- 受入れての現状課題を共有することだと思います。例えば、管財部の素早い対応についても、スロープ設置など情報共有して頂ければと思います。
- 他人事ではなく自分事として取り組むこと
- それぞれの学科や委員会、事務局がそれぞれの役割を理解し合い、できることを共有し、連携し合える体制をつくるのが今後は、より必要になると思います。
- 情報共有が必要だと感じます。また、車椅子以外にも障がいの形はあるため、心理的な不安を抱える学生への支援などに触れた研修ができると、嬉しいです。
- 「バリアフリーを多くしたい」と言いますが、家政学館にはエレベーターは無いし、車いすで生活できる環

境ではない。身体障がいの学生が就学してこなくても学生が骨折等した場合、移動しにくいとは思った。また、私の所属の学科ですが、学科ごとに話し合ったところ「身体障がいを持った学生は実習もできないしどうしようもない。」で終わってしまったので、実習ができないならどうすればいいのか、どうすれば学ぶことができるのか考えてほしかった。

- 障がい学生支援は大学全体で取り組むことであり、事務局や他学科との連携が不可欠なので、学科ごとの意見交換(話し合い)ではない方がよかったのではないかと感じた。しかし、その場合は 30 分程度の時間設定では対応できないと思う。
- 「各学科における障がい学生支援の在り方および課題の共有」グループワークについてです。あらかじめ各学科の責任者(できれば若手教員)を決めていてほしかった。いざ、グループワークが始まってから決めたので、その分、時間をロスしてしまいました。
- 施設設備の充実・点検でしょうか

設問 5 学園教育充実研究会の開催時期についてはどうでしたか？

[とても良かった]	19人	19%
[良かった]	52人	51%
[良くなかった]	7人	7%
[まったく良くなかった]	1人	1%
[未回答]	22人	22%

設問 6 今後、学園教育充実研究会で取り上げたい研修内容等がありましたらお書きください。

【回答数20人】

- データサイエンスや科学的知見に基づく授業への活用方法 など
- メンタル面でサポートが必要な学生の対応について
- 様々な国家資格などの養成課程で、法規が変わるなどであたらしいカリキュラムや授業内容が求められています。それらに対応するために、教員のスキル向上が求められ、日常の研究活動が不可欠です。教育と研究の両立を目指される先生方の貴重な体験談をお聞きしたいと思います。
- 加速する少子化にどう向き合うべきか
- 学習障害の特性や対応などについて具体的に学ぶ機会があるとよいのではないかと思います。
- 地域社会のニーズと学科運営の在り方の関連を意識化できるような研修を望みます。
- ポストコロナ(With コロナ)に向けて、授業をどう組み立てていくか・・・など。
- 昨年、今年とテーマが変更。研修を通し刺激や考える機会にはなっているが、学園全体としての動きには至っていないように思える。その点が少し気になっています。
- 今回、壇上でまとめて発表していただいた内容は、「現場の声」でもあるので、その内容を精査して、今後どのような支援対策が必要なのか、さらに検討が必要かと思います。
- アカデミックハラスメント防止 ハラスメント防止委員会で動画視聴による研修を実施しましたが、受講者は全学教職員の 6 割でした。学園教育充実研究会で取り上げて頂けると、より多くの方に浸透するのではないかと期待します。
- 教育に活かす ICT(まだまだ中途半端なものですから)。

Ⅲ 各種研修会

本学では、平成 24 年度から「各種研修会」を導入し、徐々に実施回数を増やすなどの試みを重ねてきた。平成 26 年度からは、研修開催主体の他部署・委員会への開放や、年間参加回数ガイドラインの導入を行っている。昨年に引き続き、コロナ禍のためオンライン配信を教室で視聴する形の研修会も実施した。

日程		タイトル および 講演者	主 催	出席(人)
1	6/2	SD/FD 研修 「経済安全保障と福島県」 福島県警察本部 警備部外事課 外事課長 警視 阿部勝也 氏	学生生活部、 学園教育充実研究会 共催	53
2	7/20 7/21	FD研修(オンライン研修) 「めばえドリルの意義、学生の利用状況を 確認する方法」 ラインズ(株)リメディアル教育担当 林大二郎氏	教養・キャリア委員会、 就職部、IT管理・運営委員会 共催	38
3	8/22- 9/30	科研費説明会(Web視聴、資料内容確認) 「科研費について」「研究倫理教育受講」	不正防止員会・教務部 共催	51
4	11/30	食物栄養学科 学科セミナー 「労働者の健康・体力づくり活動からわかったこと」 郡山女子大学 准教授 諏訪雅貴氏	大学 食物栄養学科	27
5	1/21	第19回 食物栄養学科市民フォーラム 『食と健康～免疫力upと食の安全を考える』 (オンライン同時開催) 「腸内フローラと健康～プロバイオティクスのチカラ～」 (株)ヤクルト本社 東日本支店 松田久美子氏 「転ばぬ先の運動のすすめ」 太田西ノ内病院 運動指導室室長 星野武彦氏 「食・環境と放射線量」 郡山女子大学 准教授 影山志保氏	大学 食物栄養学科	18
6	2/13	学生指導研修会(オンライン研修) 「今大学で対応すべき学生の心のケアと成長支援～コロナ禍 後に向けて～」 甲南大学 教授 高石恭子氏	学生生活部・学生生活委員会、 障がい学習支援委員会、学生 相談室共催	48
7	2/17	障がい学生支援研修会 「2022年度の障がい学習を振り返る」 郡山女子大学 教授 小林徹氏	障がい学生支援委員会・ 学生生活部 共催	51
8	1/26- 2/15	ハラスメント防止研修会(Web視聴) 「みんなでNOハラスメントオンライン研修講座」	ハラスメント防止委員会	110
9	3/7	令和4年度 学校教育における著作権に関する研修会 「論文作成等に関わる著作権制度のおさらい」 「令和3年著作権法改正による『国立国会図書館デジタル コレクション』のリニューアルと『個人向け送信サービス(個人 送信)』について」 郡山女子大学短期大学部 講師 和知剛氏	教務部、不正防止委員会共催	27
10	2/15 2/16 2/24	第1回 SD研修「未来に向けて学園の魅力を発見・発信しよう！」 ・関係性の構築により仲間意識の向上を図る ・コミュニケーションの活性化により、生産性の向上を図る	学園教育充実研究会 SD委員会	23
総計				446

各種研修会〔報告〕

1. 令和4年度 経済安全保障に関する研修会

学生生活部と教育充実研究会FD・SD部門の共催で研修会を実施した。本学では、教職員を対象に学校教育における著作権に関する研修会をオンデマンド方式で年度末に実施している。大学における研究や地域連携活動等における他機関との連携において、先端技術の流出を防ぐ必要があり、日本における実例をもとに、講師より例を提示しながらわかりやすく解説いただいた。当日の出席者大学22名、短大16名、事務局15名計53名であり、広く周知することを目的とし、欠席者には資料を配布した。

■ 共催

学生生活部と教育充実研究会

■ 日程

令和4年6月2日（木）16:10～17:30

■ 会場

建学記念講堂 大ホール

■ 講師

福島県警察本部 警備部外事課 外事課長 阿部勝也 警視

■ テーマ:「経済安全保障と福島県」

■ 実施内容

1. 安全保障を巡る国際情勢の変化
2. 福島県内の動向、情勢
3. 企業（大学）による対策と警察による取り組み



2. 令和4年度 めばえドリル利用促進研修会

本学では昨年度(令和3年度)からE-ラーニングシステム「めばえドリル」(基礎編・応用編・SPI対策)が大学短大全学生の利用可能となっているが、まだ認知度が低く利用率には学科間の差が見られる。一層の有効活用を図るため、教養・キャリア教育委員会、IT管理・運営委員会、就職部共催として大学短大教員対象のFD研修会を実施した。

テーマは「めばえドリルの意義」と「利用状況確認方法」に絞り、コロナ禍のためオンライン研修として2日に分けて実施した。

事前に資料データをグループウェア回覧板で全教員へ発信し、終了後に研修内容録画資料をIT管理・運営委員会委員長が「システムめばえ」リンク集に掲載し随時参照できるようにした。

■ 共催

教養・キャリア教育委員会、IT管理・運営委員会、就職部

■ 日程

令和4年7月20日(水)、21(木) 両日とも16:15~16:55

■ 会場

創学館2階 521 講義室(オンライン研修)

■ 講師

株式会社ラインズ社リメディアル教育担当 林大二郎氏

■ テーマ:「めばえドリルの意義、利用状況の確認方法」

■ 実施内容

1. システム概要、ラインズSPIの特長

2. めばえドリル成績閲覧者用マニュアル

■ 出席者数

20日 18名(大学16、短大2) 21日 20名(大学3、短大16、事務局1) 計38名(延べ人数)



3.学内での科研費説明会(Web)

科学研究費助成事業(科研費)について、文部科学省より発表された内容をもとに令和5年度公募の科研費申請書の変更点や近年の動向をまとめ、回覧板を用いて学内での科研費説明会を実施した。また、例年同様に不正防止委員会と共催で行い、あわせて研究倫理教育を行った。

昨年度より、科研費助成事業の公募、審査結果通知の早期化に伴い、本学でも締切を早めて対応することとなり、昨年同様に学内締切を9月20日(火)とした。

研究倫理教育については、文部科学省のホームページにある「令和元年度～令和4年度」の研究不正事例を読むこと対応した。

■ 主催

教務部、不正防止委員会

■ 日程

令和4年8月22日(月)～9月30(金)

■ 会場

資料閲覧のため、各部署または各研究室

■ 実施内容(抜粋)

- (1) 科学研究費助成事業(科研費)について
- (2) 科研費の最近の動向及び令和5(2023)年度公募について
- (3) 科研費電子申請システムの操作方法について
- (4) 科学研究費助成事業(科研費)の不正使用・不正行為について
- (5) 「令和元年度～令和4年度」の研究不正事例について(文科省ホームページより)

4.2022年度 第1回 大学食物栄養学科 学科セミナー

大学食物栄養学科が平成25年から継続的に実施している学科セミナーを開催し、今回は令和2年に着任した諏訪雅貴准教授が、以前、企業において従業員の安全と健康に関する部署に所属し、運動トレーナーとして健康づくり活動を行いながら、健康診断データと運動や体力に関するデータの解析などを行ってきた内容について発表を行った。

以前企業で行ってきた活動の中で、わかってきた内容について詳しく説明がなされた。

- ① 体力のうち、足把持力(足指の握力に相当する筋力)は握力よりも加齢による低下が大きく、糖尿病との関連性が強い
- ② 柔軟性(関節可動域)が低いことは、アテローム性動脈硬化と関連がある
- ③ 労働活動(勤務中の身体活動)が多いことは、低体力や高血圧症罹患と関連するという、「身体活動パラドックス」が確認された

■ 主催

大学家政学部 食物栄養学科

■ 日程

令和4年11月30日(水) 16:10~17:00

■ 会場

創学館3階 532講義室

■ 講師

諏訪 雅貴 先生(郡山女子大学家政学部食物栄養学科 准教授)

■ 演題

労働者の健康・体力づくり活動からわかったこと

■ 実施内容

- (1) 職域における労働安全衛生の特徴
- (2) 足把持力と糖尿病
- (3) 柔軟性とアテローム性動脈硬化
- (4) 労働活動と健康



5.第19回食物栄養学科市民フォーラム

テーマ「食と健康～免疫力UPと食の安全を考える」

今年度は、「食と健康」をテーマに市民フォーラムを開催した。食の面では福島第一原子力発電所事故後10年を経て、福島県における食の安全性の今を本学の活動とともに報告し、健康の面では腸内環境と運動の2つの視点から講師を招いて講演いただいた。本フォーラムは食と健康の在り方について市民と共にフォーラムを通じて考えていくことを目的としている。当日の参加者はオンラインと来場者合わせて30名であった。

- 主催
食物栄養学科
- 日程
令和5年1月21日(土) 13:00～15:30
- 会場
創学館2階 521講義室(Web同時配信)
- プログラム

13:00～13:05	「開会の挨拶」 西山 慶治(郡山女子大学 教授)
13:05～13:55	「腸内フローラと健康 ～プロバイオティクスのチカラ～」 松田 久美子 氏((株)ヤクルト本社 東日本支店 管理栄養士)
14:00～14:50	「転ばぬ先の運動のすすめ」 星野 武彦 氏(太田西ノ内病院 運動指導室 室長)
14:55～15:25	「食・環境と放射線量」 影山 志保 氏(郡山女子大学 准教授)
15:25～15:30	「閉会の挨拶」 大西 弘太郎(郡山女子大学 教授)



6. 令和4年度 学生指導研修会

令和2年にWHO（世界保健機関）が新型コロナウイルス感染症のパンデミック宣言を出す事態となり、本学でも大学教育の在り方を模索し、対応・対策に苦慮しながら学生支援を行ってきた。しかし、長期化するコロナ禍での生活が学生に与えた影響は甚大であり、リアルなキャンパスライフの喪失により人間関係構築の一部が失われ、大学で学ぶ意義などが不透明となり、学生の孤独・孤立を生んだ側面がある。学生が置かれている現在の危機的状況を把握・理解し、今後教職員が求められている学生支援などについて学ぶための研修会を開催した。当日の出席者は、大学20名、短大22名、事務局6名の計48名（オンライン参加者9名を含む）であり、会場では関係資料が配布された。

■ 共催

学生生活部・学生生活委員会・障がい学生支援委員会・学生相談室

■ 日程

令和5年2月13日（月）14:00～15:20

■ 会場

創学館2階 521 講義室

■ 講師

高石恭子 氏（甲南大学文学部教授、臨床心理学者、現一般社団法人日本学生相談学会理事長）

■ 演題

「いま大学で対応すべき学生の心のケアと成長支援ーコロナ禍後に向けてー」

■ 実施内容（オンライン研修）

1. はじめにー大学と学生を襲った「コロナ禍」という危機ー
2. コロナ禍が大学と学生にもたらした影響
 - ・遠隔授業で得たものと失ったもの ・学生期の心理発達課題 ・コロナ禍の学生生活
3. コロナ禍世代の学生の心をどう理解するか
 - ・あいまいな喪失と未来系のトラウマを負った若者たち ・2年生問題と3年生問題
 - ・対面キャンパスライフ再開がはらむリスク ・主体性の低下
4. 加速する学生の体験様式の変化
 - ・コロナ禍前の学生 ・共感性の低下 ・全学生の成長支援（密の再評価と体験の提供）
5. 大学に求められる学生支援
 - ・フィジカル空間とサイバー空間のハイブリット ・「心の三密」体験の重要性
 - ・カスタマイズできる学修とキャンパスライフの在り方 ・多様性と公平性と包摂
 - ・学生個々人が見出す学びの「最適解」と主体性



7. 令和4年度障がい学生支援研修会

「2022年度の本学の障がい学生支援を振り返る」

本学では、平成26年度より「障がい学生支援委員会」が発足し、各学科、学生生活部、教務部、入学事務・広報部、就職部等が連携した障がい学生の支援が始まった。令和2年には「障がい学生支援規程」が策定され、学内における支援の体制整備が進められてきた。そして、今年度令和4年度には、2名の障がい学生が短大地域創成学科に入学したことをきっかけに「障がい学生支援室ペルル」が開設され、学科を中心として支援室が協力する形で具体的な支援が行われているところである。今後、このような障がい学生の受け入れが進むと予想され、本学としての体制整備がますます重要になると考えられる。そこで、この研修では、令和4年度の障がい学生支援の具体的な事例を振り返り、その内容を共有した上で、同じ私立の大学として障がい学生支援を進めてきた聖学院大学オリーブデスクの先生方にアドバイスをいただいた。

■ 主催

障がい学生支援委員会・学生生活部

■ 日程

令和5年2月17日(金) 14:00～16:00

■ 会場

創学館2階 521講義室

■ 講師

元田宏樹氏(聖学院大学准教授・オリーブデスク室長)、山田将人氏(同オリーブデスク職員)

■ 参加者

51名(大学18名、短大24名、職員9名)

■ 実施内容(抜粋)

- (1) 開会挨拶
- (2) 本学の障がい学生支援のこれまでの概略(障がい学生支援委員会／小林 徹)
- (3) 2022年度の障がい学生支援の実践事例発表(地域創成学科／仲田佐和子先生)
- (4) 本学の障がい学生支援に向けたアドバイス(オリーブデスク室長／元田宏樹氏)
- (5) 聖学院大学における障がい学生支援の現状(オリーブデスク専門職員／山田将人氏)
- (6) 質疑応答
- (7) 謝辞・閉会挨拶



8. 令和4年度ハラスメント防止研修会

ハラスメント防止委員会では、学園全体の教職員を対象とする研修会を年1回開催しているが、今年度は昨年度に引き続きコロナ感染拡大防止のため外部講師による対面での研修会は見送り、ハラスメント防止に関する動画を視聴する形式にした。グループウェアを活用して全教職員に動画提示期間内の視聴を呼び掛けた。詳細は下記の通りである。

■ 主催

ハラスメント防止委員会

■ 日程

令和5年1月26日(木)～2月15日(水)

■ 会場

動画視聴のため各部署または各研究室

■ 講師

厚生省ホームページ掲載の動画

■ 実施内容(抜粋)

1. 動画名：厚生労働省ホームページ

「みんなでNOハラスメントオンライン研修講座」の「労働者向け」または、「人事・労務の方向け」の2種類の内からどちらかを選択して視聴する。(下記参照)

2. 動画の内容：

【第1章】職場のハラスメントの基礎知識

【第2章】パワーハラスメントの具体例

【第3章】どうすればハラスメントを防止できるのか

「受講する」を押下して開始し確認テストへ進み確認テストに全問正解すると、受講証明書がダウンロードできる流れになっている。ただし、証明書の提出等は求めないものとした。

3. 修了確認：グループウェア回覧板(令和5年1月27日付)メモ欄へ視聴した月日を記入し、2月15日(水)までに送信することにより、委員長が修了者数を確認する。

4. 学園教育充実研究会のFD/SD研修の一つとして認められることを回覧板に記載し周知した。

5. 研修修了者数：116名 (60.1%)



URL <https://www.no-harassment.mhlw.go.jp/learning/>

9.令和4年度 学校教育における著作権に関する研修会

教務部と不正防止委員会では、教職員を対象に学校教育における著作権に関する研修会をオンデマンド方式で年度末に実施している。今年度で4回目の研修となる。今年度は対面方式とし、実施内容が研究論文作成に関することから、教員を対象に実施した。今年度の講師も引き続き図書館司書係長の和知 剛 先生にお願いした。参加者数は27名だった。

■ 主催

教務部・不正防止委員会

■ 日程

令和5年3月7日（火）

■ 会場

創学館 632講義室

■ 講師

和知 剛先生（図書館司書係長）

■ 実施内容（抜粋）

- ① 論文作成等に関わる著作権制度のおさらい
- ② 令和 3 年著作権法改正による「国立国会図書館デジタルコレクション」のリニューアルと「個人向け送信サービス（個人送信）」について



10.第1回研修会 SD部門：未来に向けて学園の魅力を発見・発信しよう！

コロナ禍であるがゆえに会話のしづらさ、人間関係の疎遠化が問題視される現状で、事務局内の垣根を超えたコミュニケーションの場を設け、テーマである「魅力ある学園の発見・発信」を連携して進めることにより、事務局内の活性化につなげることが目的である。

サブタイトルに「関係性の構築により仲間意識の向上を図る」「コミュニケーションの活性化により、生産性の向上を図る」の2点を挙げた。

事前にSD委員会で提案したA～Dのテーマから各自1点を選択し、グループワーク形式により研修を進めた。研修の成果物にとらわれることなく、本研修のテーマを念頭に参加各自の忌憚のない意見交換を通じて、相互理解を深める。これらが、今後の学園運営、SD活動にいかしていければと思う。

■主 催 学園教育充実研究会 SD委員会

■題 目 「未来に向けて学園の魅力を発見・発信しよう！」

・関係性の構築により仲間意識の向上を図る

・コミュニケーションの活性化により、生産性の向上を図る

■日 程

A. 令和5年2月15日(水) 14:00～15:30

B. 令和5年2月16日(木) 14:40～16:00

C. 令和5年2月24日(金) 14:00～15:20

D. 令和5年2月24日(金) 14:40～16:00

■会 場

A. 創学館1階 談話室

B. 62年館3階 631講義室

C. 創学館4階 No.7ゼミ室

D. 創学館4階 No.8ゼミ室

■実施内容(各グループテーマ)

A. 学園内の魅力ある日常生活を発信してみよう

B. 事務局職員内でできる「SDGs」を考えてみよう

C. 事務局職員として「もみじ会」に参加するとしたら何ができそうか

D. 学生生活を充実させるには(サークル・部活動活性化)

■A. 学園内の魅力ある日常生活を発信してみよう

報告書 (SD安齋・岸本)

(1)参加者:岸本・安齋・辻・若林 計4名

(2)研修内容

- ・学園内の魅力ある場所等を話し合い、テーマを決める
- ・決定したことについて、デジタルカメラで撮影を行う
- ・撮影した画像を学園ホームページのブログへ掲載する

(3)研修の結果・効果

- ・各々が思っている魅力ある場所等はそれぞれ異なり、参考となった。
- ・学生の日常生活について撮影したかったが、学生が居ない時期であり、キャンパスツアーを題材にホームページに掲載する事となった。
- ・立入禁止の創学館屋上の風景、屋上からの景色を掲載する事で、学生が普段見ることが出来ない場所を紹介する事ができた。
- ・事務局 各部署の垣根を超えて横のつながりを意識する事ができた。
- ・生活文化博物館も撮影したが、ボリュームが大きくなるため、キャンパスツアー創学館編として、創学館ネーチャードーム、屋上を中心にホームページで紹介した。
- ・ホームページの文章は4人の意見を話し合い、分担して掲載した。
- ・フーコーの振り子に興味のある方へ、宣伝効果があった。

※2月15日学園ブログ「ホームページキャンパスツアー(創学館編)」掲載



■B. 事務局職員内でできる「SDGs」を考えてみよう

報告書 (SD阿部・佐藤(利))

(1)参加者:阿部・佐藤(利)・緑川・森・浅倉・皆川・根本・星・仲村・西勝・早津・柳原・七海

計13名

(2)研修内容

1挨拶・事前配布資料の紹介

①外務省国際協力局資料(R4.5)②「ローマクラブ新リポート」(抜粋)

③三菱経済研究所発行「経済の進路」R5.1月号 巻頭言

2学内・他社でのSDGs取組事例の紹介

大学(管財部長・環境委員会委員長:緑川)

高校(高校事務室:七海)

福島民報社の事例(入学事務部:浅倉)

3学園としてSDGsにどのように取り組むか

4まとめ

(3)研修の結果・効果

本研修会は、各テーマに分かれての少人数研修であったため各人が意見を持ち寄り忌憚なく話し合いが行われた。SDGsへの取組みにはさまざまな観点からの切り口があるが、参加者からは普段自分達が行っている行動が17の目標のいずれかに当てはまる可能性が高い。まずは身近なところから出来ることから実践していくのが良いのではないかなど多くの意見が述べられた。

学園ホームページには、環境経営レポートや活動について掲載しているが認知度が低い。より多くの方々の目につくようなアピール方法として、参加型イベントを実施する際は、事前周知に力を入れより多くの方に参加をもらおう。また、ブログや記事にSDGsに関わる活動を掲載する際には、達成を目指す17の目標のどれに該当しているかマークを付け投稿する事でより身近に感じてもらえるのではないかと、この意見が出され本研修会より提言することについて全会一致で了承された。



■C. 事務局職員として「もみじ会」に参加するとしたら何ができそうか

報告書 (SD平野・本多)

(1)参加者:平野・本多・菅野(家庭寮) 計3名

(2)研修内容

他大学の文化祭を参考にしながら、もみじ会(学修成果の発表会)への参加について考える。

(3)研修の結果・効果

他大学での事例について知り、本学の現状について話し合いながら、出来ることについて協議を行った。連携を行っている自治体等と協力し、地域の特産品を調理・加工後に詰め込んだお弁当などの意見が出された。和やかな雰囲気で開催研修会ができ、普段は業務でのみの関わりが主だったが、これからは折を見て世間話などできる時間を持てるよう取り組んでいきたいとなった。また、もみじ会も業務があり関わりが薄かったこともあるので、出来ることからつながりを深めていくことで終了となった。



～できそう、な こと～

事務局の負担が多くないからこそ。
やってみたら！面白そうなこと。

★知る。県内魅力★

普段、見過ごしがちな県内の魅力を
学生に伝え、地域社会とのきっかけ作りに

2023 年 2 月 24 日

★繋ぐ、地産地消PJ★

連携境を結んでいる地域の特産品を
盛り込んだ限定お弁当作成・販売

SD研修会 選択C

★在学生の懇談会★

大学への要望やあったらいいなと
いうニーズを把握し、実現に向けて
検討する材料を探す。

7

■D. 学生生活を充実させるには(サークル・部活動活性化)

報告書(SD小橋)

(1)参加者:小橋・佐藤(吉)・井上 計3名

(2)研修内容

サークル・部活動の観点から、現状の確認と学生満足度向上につながる改善案を検討した

・検討内容

窓口・問い合わせ先をわかりやすくする

部室の場所をわかりやすくする

部室の整理整頓をし、活用可能にする

専用の掲示板を各建屋に設置し活用してもらう

活動状況報告の流れを作る

(各サークル⇒学友会の広報担当 など)

職員も参加可能にする

運動部活動の地域移行の実施主体となる可能性を

想定しておく

会費入会金の効率的使用による活動活性化の好循環を目指す

(3)研修の結果・効果

サークル・部活動に関しての現状を相互に確認し、学生の満足度向上につながる改善案を検討することができた。検討内容については実現に様々な制約があるが、学生の満足度向上はもとより、職員の健康増進や地域との関係性構築まで考慮した意見が出され、活発な研修となった。他の職員とコミュニケーションをとる良い機会であったとともに、業務を見つめなおすきっかけとなった。



以上

Ⅳ 事務局職員 外部研修参加記録

事務局職員においては学内研修だけでなく、外部団体主催の研修に参加することが SD 活動においても重要である。新型コロナウイルス感染症の影響により外部団体主催の研修会開催が減少しているところだが、オンライン開催により実施している団体も増えてきた。しかし、事務局職員の外部研修への参加機会は減少したままであり回復していない。

件 名	主 催	期 日	会 場	出 席
【総務部】 1. 2022 年度河合塾グループ IR セミナー 大学教職員のための初歩からの IR 講座	河合塾グループ	2022/8/26 2022/12/5 2022/3/2	オンライン	1 名
2. 令和4年度地域事務担当者向け説明会	日本私立学校振興・ 共済事業団	2022/7/21	郡山商工会議 所(市内)	1 名
3. 日本私立大学協会東北支部事務研修会	日本私立大学協会 東北支部	2022/9/1-2	ホテルシティブ ラザ北上 (北上市)	1 名
4. 令和4年度「事務局長担当者研修会」参加	日本私立大学協会	2022/10/5	オンライン	1 名
5. 令和4年度第2回私学共済事務担当者研修会	日本私立学校振興・ 共済事業団	2023/1/18-19	仙台ガーデン パレス (仙台市)	2 名
6. 令和5年度障害者雇用納付金申告書作成 事務説明会	高齢・障害・求職者 雇用支援機構	2023/2/6	ビッグパレット ふくしま (市内)	1 名
【経理部】 1. 私学経営研究会セミナー(電子帳簿保存法 とインボイス制度への対応と実務)	私学経営研究会	2022/10/29	東京ガーデンパ レス(東京都)	1 名
【管財部】 1. EA21フォローアップセミナー	環境ネット山形	2022/11/21	コラッセふくし ま(福島市)	1 名
2. 林業研究グループ等活動発表会	福島県森林計画課	2023/1/31	林業研究セン ター(郡山市)	2 名
3. 福島県安全で安心な県づくり推進会議	福島県危機管理部	2023/3/23	福島県庁北庁 舎プレスルー ム(福島市)	2 名
【教務部】 1. 大学教務部課長相当者研修会	私学研修福祉会	2022/10/12	オンライン	1 名
2. 大学設置基準等の改正に関する説明会	日本私立大学協会	2022/9/22	オンライン	1 名
3. 人を対象とする研究の倫理	放送大学		DVD	1 名
【学生生活部】 1. 令和4年度「学生生活指導部課長相当者 研修会」	私学研修福祉会	2022/7/7	オンライン	1 名
2. 令和4年度「私立大学学生生活指導部相当者 研修会」	日本私立短期大学協会	2022/9/21	オンライン	1 名
3. 令和4年度学生教育研究災害障害保険 説明会へのZOOM 参加	日本教育支援協会	2022/11/9	オンライン	1 名
【就職部】 1. 第9回キャリアサポーターワーキンググループ への出席	ACFキャリアサポーター 制度運営事務局	2022/5/16	オンライン	2 名

2.「東北私立大学就職問題協議会」への出席	東北私立大学就職問題協議会	2022/6/24	オンライン	1名
3. 令和4年度就職部課長相当者研修会	日本私立大学協会	2022/11/16	オンライン	1名
4. 令和4年度東北地区学生指導研修会	東北地区学生指導研修会東北大学	2022/12/7	オンライン	1名
5. 第11回キャリアサポーター制度 ワーキンググループ	ACFキャリアサポーター 制度 運営事務局	2023/1/26	オンライン	1名
6. 第12回キャリアサポーターワーキンググループ	ACFキャリアサポーター 制度運営事務局	2023/3/9	オンライン	1名
[図書館] 1. 福島県内大学図書館連絡協議会第29回 実務者研修会	福島県内大学図書館 連絡協議会	2022/12/5	オンライン	3名
[今期該当なし] 事務局長、入学事務・広報部、保健室・学園SD、高校事務室・附属幼稚園・家庭寮				

ひ と こ と

郡山女子大学短期大学部副学長 齋藤美保子

令和四年度はコロナ禍による制限が続き、創立記念日の養老孟司先生の講演会も、大ホールに半数の学生が間隔を空けて着席する対面と、集会室に向けたオンラインの同時開催となりました。それでも学生は、大学に来て友人と会えることに改めて喜びを感じたのでしょう。マスク生活など制限の多い活動にも協力的で、今でことに真面目に取り組む姿が健気でした。

それに対し教職員は、長年の経験則から推し量れない事態に度々遭遇し、コミュニケーションの取り難さも三年目となり、心身共にストレスを感じるが多かったようです。その様な状況下で、「労働者の健康」「食と健康」「学生の心のケア」「NO ハラスメント」と言った、学園教育充実研究会が展開して下さる研修はどれも時宜を得たものでした。特にオンラインで受講し易かった「学生の心のケア」に科研費説明会と同程度の受講数、視聴期間の長かった「No ハラスメントオンライン研修講座」にその二倍の受講数が記録されたのは、教職員の切実な思いの表れに他なりません。

また、電動車椅子の学生二人が入学した地域創成学科の教員としては、二月の障がい学生支援研修会に続き、学園教育充実研究会〔大会〕のテーマが「合理的配慮を必要とする学生の支援にむけて」と設定されたことが、大変ありがたいことでした。勉学に勤しんでいる車椅子の学生が二名いるということ、全学に知っていただくことができました。入学前に二人には実際に電動車椅子で学内を回ってもらい、シミュレーションしました。購買部の中をひと回りできるか、芸術館から創学館への移動はどうか、その時に感じた不便が、入学と同時に開設された障がい学生支援室の先生方の御協力で可視化され、学内で共有できたことは極めて意義深いです。

川沿いに建つ本学の地盤は必ずしも盤石とはいえず、エレベーターの設置が不可能な校舎もあり、バリアフリーは容易ではありません。それでも少しずつ工夫して、たとえば講堂展示ギャラリーへのスロープの設置が2022年秋にできました。バリアフリー化は障がいをもつ学生だけでなく、附属幼稚園の園児、高齢の教職員や学内を利用する多くの方々にとっても、安心して移動し易くなったということです。今後は、多様な人々と共生していく「心のバリアフリー」も一層、進めることになります。

年度当初の「経済安全保障に関する研修会」で先端技術の流出を防ぐ必要を学びましたが、年度末には「チャット GPT」の出現で個人データの漏洩や学生レポートのあり方が根本から問われることとなりました。まさに先の見通せない現在、学園教育充実研究会には、次年度も時代が求める多様な研修を展開して頂きたいと思います。

本年度のFD・SD活動を振り返って

学園教育充実研究会 主任 磯部 哲夫

今年度もコロナ禍でのFD・SD活動であったが、これまでのコロナ禍での経験を活かし、対面での研修会、規模を縮小した全授業公開、授業改善について学生代表参画のFD活動等が再開され、大きな問題もなく活動が実施され、少しずつ以前の形に戻ってきた年であった。数年間に及んだコロナ禍でも、試行錯誤を繰り返しFD・SD活動を続けられてきたことは、教職員の方々の職能開発の意欲と、教育活動を止めない思いがあったからこそ成し得た結果であろう。

今年度の学園教育充実研究会の主要なFD・SD活動のである(1)授業公開(2)第58回学園教育充実研究会(大会)(3)各種研修会(4)授業評価アンケートについて、それぞれの活動を振り返ってみる。

(1)新型コロナウイルス感染拡大のため中止していた授業公開については、所属の学科の授業のみ参観とし、11月14日(月)～11月25日(金)の2週間で全授業公開を実施し、教員間の教育力向上を図った。

(2)全教職員が集う第58回 学園教育充実研究会(大会)については、「合理的配慮を必要とする学生の支援にむけて」をテーマに、障がい学生支援室と共催で開催し、障がい学生支援室の小林徹先生と藤村励子先生の講演を拝聴し、各学科・事務局内における障がい学生支援の在り方および課題の共有について、教職員協働で活発なディスカッションが繰り広げられた。実施後のアンケートにおいて、98.7%の肯定的評価(有益、やや有益を併せた割合)を獲得した。

(3)教職員の各種研修会については、昨年度同様新型コロナ感染防止を考慮しながら研修会を実施することとし、教職員の研修会参加を促すために設けていた参加下限設定は、今年度も行わなかった。研修会の実施方法は対面、オンライン、またはハイブリッドで開催され、昨年度の研修会実施回数4回に対し、今年度の研修会実施回数は10回で、昨年度と比べると2.5倍の実施回数となり、研修会参加の延べ人数は446名であった。また事務職員の外部研修会参加については、新型コロナウイルス感染症の影響により外部団体主催の研修会開催が減少しているが、各部署において様々な外部研修会の参加が確認できた。

(4)授業評価アンケートについては、アンケート結果を基に授業改善についてFD部門の委員と学生の代表が参画するFD活動について、新型コロナ感染防止の観点から2年間実施しなかったが、今年度は前回よりも各学科の学生人数を増やして実施し、学科主任へ活動報告を行った。

以上、4つの今年度の活動に対して、次年度へ向けた改善を下記に示す。

(1)授業公開については、実施時期、実施方法について検討する。(2)学園教育充実研究会(大会)については、今年度の大会後のアンケートを踏まえ、実施時期、実施内容について検討する。(3)各種研修会については、次年度もオンラインも含めた実施方法で、今年度と同等かそれ以上の実施回数を目指し、研修会の充実を図っていく。(4)次年度は授業評価アンケートに基づいた教員の評価について、業者と打ち合わせをしてより良い評価方法について検討する。また、授業評価アンケートの学外公表、授業評価アンケートに基づいたベスト・ティーチング賞(仮名)についても検討する。授業評価アンケート結果を基に授業改善についてFD部門の委員と学生の代表が参画するFD活動の実施については、学生の参画人数を含めた実施内容、フィードバックの方法について検討する。

次年度へ向け、教職員の職能開発、教育活動改善に向けたFD・SD活動の展開について更に検討を重ね、改善を図っていきたい。

令和4年度(2022) 学園教育充実研究会委員 (大学・短大部門)

部 門	委 員	所 属
FD 部門	磯部 哲夫 (委員長・FD 部門 主任)	短期大学部 幼児教育学科
	岡部 聡子 (FD 部門 副主任)	大学 家政学部 食物栄養学科
	長田 城治	大学 家政学部 生活科学科
	郡司 尚子	大学 家政学部 食物栄養学科
	澤渡 優喜	短期大学部 健康栄養学科
	柴田 卓	短期大学部 幼児教育学科
SD 部門	村田 菜織 (SD 部門 主任)	管財部
	安齋 文明 (SD 部門 副主任)	管財部
	佐藤 利枝子	教務部
	平野 由香子	経理部
	本多 泰治	就職部
	阿部 真澄	総務部
	小橋 健人	高校事務室